

| ディプロマ・ポリシー | | | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |
|--|-----|---|--|---|
| <p>本学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（社会福祉学）の学位を授与します。</p> | | | <p>本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、人のこころと生活についての理解を深め、グローバル社会における対人援助において求められる豊かな人間性、教養、専門的価値・知識・技術を身につけることができるようカリキュラムを編成します。</p> | <p>本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求めます。</p> |
| 1. 知識・理解 | 1-1 | 社会福祉学に関する基礎的・専門的知識を有している。 | <p>1. 専門的な価値・知識及び方法論を体系的に学ぶために、基礎教育科目、専門教育科目を学科科目として設置します。自らの専門領域や分野だけでなく、幅広く関心ある科目を履修して国際的、学際的な視点を養うことを推進します。</p> | <p>人を支援することに高いモチベーションを有し、社会福祉士、精神保健福祉士などの専門職になることやその知識を活かしたソーシャルビジネスの起業にも関心を持ち、これらに必要な資質や能力を高めることによって、多様性を活かした豊かな社会の実現に貢献しようとする者を受け入れます。</p> |
| | 1-2 | (Society 5.0がめざす)人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会的実現に向けて活動する地球市民として求められる行動規範について理解している。 | | |
| 2. 技能・表現 | 2-1 | 論理的思考により、社会実装をめざした建設的な方策が提案できる。 | <p>2. 論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション能力、課題探求力、表現能力など、現代社会において必要となる社会人基礎力を習得し、人の個性とその人らしく生きる権利を尊重しながら新たなコミュニティを築く能力を育成するために、全学年で実践的な講義や演習を実施します。</p> <p>3. 修得した知識やスキルを活用し、問題解決に向けて新たな提案をするなど、想像力を持って創造的に考え行動できる能力を育成するために、卒業論文を必修として、社会的意義がある論文作成を行います。</p> <p>4. 所定の授業科目を修得することで、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができる教育課程を編成し、国及び地方公共団体の福祉職をはじめとして福祉専門職として活躍できる実践力やソーシャルビジネスを起業できる気概を養います。</p> | <p>多様性に富む豊かな社会の実現に貢献するためには、あらゆる場面で知識を活用し思考する力を問われます。したがって、文系・理系という狭い枠にとらわれず、国語、英語、地理歴史、公民のほか、数学、物理、化学、生物といった科目をできる限り幅広く履修し、確かな基礎知識を備えておくことを求めます。</p> <p>またグローバルな社会における経済活動にも関心を持ち、社会福祉・精神保健福祉分野においてもその手法を活かすアイデアを模索しようとする女性に期待をします。</p> |
| | 2-2 | 自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を有している。 | | |
| | 2-3 | 他者との円滑な関係を構築し、それを維持しながら多様な人々と協働することができる。 | | |
| 3. 思考・判断 | 3-1 | 知の主体としての自己の存在を尊重し、自ら考え、行動し、その達成の説明責任を自らに課することができる。 | <p>5. 教育課程では、講義のみならず、個別発表やグループディスカッション、実践的演習及び実習といった教育方法を活用し、主体的な学修を通じた理解を高めます。</p> <p>6. 教育課程における学修の評価については、卒業年次に提出する卒業論文、3年次に実施される卒業論文中間報告会と卒業年次に実施される卒業論文最終審査会での発表内容および質疑応答をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p> | |
| | 3-2 | 自己の経験知の尊重と相対化により、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求することができる。 | | |
| | 3-3 | 必要な情報を収集・整理し、あらたな問題を発見することができる。 | | |
| | 3-4 | 倫理的ジレンマに惑わされることなく、問題に対する解決策を立案し、冷静・柔軟に公正な判断のもとに実行することができる。 | | |
| | 3-5 | 多様な人々の生活課題を社会的な背景や構造、さらにはコミュニティと結びつけて思考することができる。 | | |
| 4. 態度・志向性 | 4-1 | 社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、学び合いの精神で、“Cool head but warm heart”（冷静な頭脳と温かい心）をもって社会的な課題に立ち向かうことができる。 | | |
| | 4-2 | 自ら考えを自ら表現したいという欲求をもち、適切な場面でそれを実現するスキルをもっている。 | | |
| | 4-3 | 人々の生活とコミュニティにおける課題を自ら発見し、解決しようとする積極的で前向きな姿勢をもっている。 | | |
| | 4-4 | 社会的な課題について、社会福祉の考え方とソーシャルビジネスも視野に入れた手法を用いて、解決に向けて取り組むことができる。 | | |
| | 4-5 | グローバルな社会の一員としての役割を見だし、こころもからだも健康に、暮らしやすい社会の実現に向けて行動することができる。 | | |